

會學濟經學大國帝都京

# 叢論經濟

號四第

卷七十二第

行發日一月十年三和昭

## 論叢

財産より生ずる無形所得の課税法學博士 神戸 正雄

形式社會學概念文學博士 米田庄太郎

租稅負擔及び經費の國際比較經濟學博士 汐見 三郎

## 時論

老齡船の運用とその處分經濟學博士 小島昌太郎

## 說苑

明治初年に於ける大阪通商會社經濟學士 菅野和太郎

學と實踐經濟學士 福井 孝治

## 雜錄

大阪の文化と造幣局經濟學博士 本庄榮治郎

私營質屋業の概況經濟學士 楠見 一正

大阪市の人口増加に就て經濟學士 武田長太郎

## 法令

鐵夫勞役扶助規則中改正

學 之 實 踐 (下)

——特に經濟學に關係して——

福 井 孝 治

三

經濟學の歴史は同時に經濟政策の歴史である。經濟理論其のものがその時代その時代の經濟政策に適應されたばかりでなく、經濟學の名に於いて一定の經濟政策——例へば自由貿易とか保護貿易とか云ふやうな——に對して *Parteilahme* が行はれた。然し吾々は科學の名に於いて如何にして行爲に對する規範を與へることが出来るであらうか、如何にして人々に斯くせよとか斯くするとか命令することが出来るであらうか。私は以下に於いて、主としてマックス・エーバアを參考として、此の點につき考察して見たいと思ふ。

或は次の如く云ふ人があるかも知れない。——技術家を見よ、彼の仕事に對して物理學は規範を與へる。若し彼が一定の重量に堪え得る橋を架けんと欲するならば、彼は先づ物理學に依頼するであらう。物理學は彼に對して如何に架橋す可きかを教へるであらう。醫師を見よ、生理學生物學等々は彼が治療に際し如何にすべきかを教へる。同様に經濟學其の他の社會科學は政策家又

は一般の人々に對して如何にす可きかを教へる。科學が規範を與えることは明白である、と。然し此の問題はもう少し精密に考へて見る必要がある。

科學が行爲、實踐に對て規範を與へるとしても、汝は斯くせよとか斯くするなとか云ふ單なる説法が科學に屬するとは何人も云はないであらう。例へばバイブルを讀めば吾々は其處に『惡に抵抗すること勿れ』だとか『人を裁くこと勿れ』と云ふが如き命令又は説法を見出すが、それ等が科學的な命題でありバイブルが科學書であるとは何人も云はないであらう。尙また吾々は寺院に於いて議會に於いて或は街頭に於いて同様の命令又は説法を聞くことが出来るが、それ等の命令者又は説法者が學問の講義をしてゐるとは何人も考へないであらう。それでは科學が吾々の行爲に對して規範を與へるとは何う云ふ意味に於いてあらう。科學が規範又は命令を與へるとしても、それは宗教上の、道德上の、又は政治上の *Normengebung* と異らなければならない。それでは一體如何なる點に於いて異なるのであらう。

恐らく次のやうにでも答へるであらう。即ち、單なる命令又は規範を與へることは勿論科學の權限外である。科學者は豫言者又は説法者ではない。此の意味に於いて科學が所謂 *Lebensweisheit* を與へるものではないことは確かである。科學の第一の任務は與へられたる所のものを論理的思惟によつて説明解釋することである。例へば狹義の科學即ち經驗科學に就いて云へば直接與へられたる所の經驗的實在を論理的概念的に加工しこれを因果的に説明することである。科學は斯様な基礎の上に立つて命令又は規範を與へる。正にその故に科學の與へる所の命令又は規範は、單

なる宗教上道德上或は政治上の命令又は規範と異つて客觀性を持つ、と。

然し與へられたる所のもの、例へば經驗的實在——近代の認識論の立場よりすれば經驗的實在なるものは眞に直接の所與ではなく既に構成されたものであると云ふであらうが、此處では此の點は重大ではない——の因果的説明又は因果的認識と云ふやうなものに基いて如何にして科學は規範を與へることが可能であらう。『斯くあり』と云ふこと、『斯くせよ』と云ふこととは全く異なる。一つは理論的範疇に屬し他は實踐的範疇に屬する。科學の名に於いて『斯くあり』と云ふことから『斯くせよ』と云ふことを引き出すことは不可能でなければならない。例へば資本主義の經濟組織の發展傾向と云ふやうなもの、科學的闡明と、其の傾向を是認し或は否認しそれを促進せよとか防止せよとか命ずること、は全く異つてゐる。科學的思惟に關する限りに於いては、前者から後者を導き出すことは不可能である。後者を導き出すには其處に思惟以外のものが加はらなくてはならない。普通一般に規範科學と呼ばれる分類に入れられてゐる所の倫理學の如きものに於いてすら、リッケルトの如きは、それが苟くも學たる限りに於いては決して命令又は規範を與へるものではないと云ふ理由で、規範科學なる名稱を排斥してゐる。<sup>15)</sup> 規範の學と規範を與へることとは同一ではないのだから、それは當然そうなくてはならない、と私も思ふ。然し今は此の點に觸れないで置く。

經驗的實在——それは、勿論、物體界精神界有價值的實在としての文化界等に分けることが出来るが——の科學的説明と命令又は規範を與へることとは同一でなく科學の名に於いて命令又は

15) Rickert, Grenzen der naturwissenschaftlichen Begriffsbildung. S. 539  
Rickert, System der Philosophie. S. 27, 31.

規則を與へることが不可能であるとするならば、先きに述べた所の、技術家や醫師や政策家の場合は如何にして之れを説明することが出来るか。それは容易である。科學の與へる智識の外に技術家や醫師や政策家の實踐的意志が存在し此の兩者が結合するから規範が生するのである。科學其のものは決して規範を與へることは出来ない。規範の成立には實踐的の意志が加はらなくてはならない。無意志無目的の規範又は命令など、云ふものは考へることは出来ぬ。技術家が一定の橋を建設せんとする場合に物理學に訴へてそれから規範を獲得するが、此の場合には彼にとつては一定の橋が實現す可き目的として既に決定してゐるから物理學から規範を獲得し得るのである。物理學其のものが斯く斯くして橋を建設せよとは命令はしない。物理學は橋を建設する爲めにも破壊する爲めにも應用され得る。如何なる目的にそれを應用するかは人間の意志に依存する。醫師が治療に際して生理學生物學等から規範を獲得する場合も同様である。彼にとつては生命の延長健康の増進と云ふことが目的として決定してゐるから生理學生物學等から規範を獲得し得るのである。此れ等の科學それ自身が命令又は規範を與へはしない。それ等は生命を延長する爲めにも破壊する爲めにも應用され得るのである。政策家が經濟學其の他の社會科學に訴へて規範を獲得する場合も同様である。吾々人間は總べて意欲し目的を追求する所のものである。従つて一定の科學的智識から直ぐに規範を獲得することが出来る。それ故に吾々は自己の意志の参加に氣が付かず、恰も科學自身が直接に命令又は規範を與へるかのやうな誤解に陥り易い。然し科學自身は何等の意志を持たず何等追求す可き目的を設定する能力を持たないが故に、吾々に對し

て命令又は規範を與へることは當然不可能である。勿論科學は人間の意志的産物である。眞理への意志が存在しなければ科學は成立しない。此の意味に於いては科學の領域に於いても「實踐理性の優位」が存在する。然し科學が人間の意志的産物であると云ふこと、科學が追求す可き目的を設定し規範を與へると云ふことは違ふのである。却つて、科學は眞理への意志——此處に眞理と云ふのは勿論所謂宗教的「眞理」ではなく論理的に證明し得られる眞理である——の産物なるが故に論理的領域を一步も出ることが出來ず、追求す可き目的を設定し規範を與へることが出來ないのである。何故なれば目的を設定し之を強制するのは論理的領域の外に出るからである。

科學それ自身が吾々の行爲に對して命令又は規範を與へることは出來ないと云つても、一定の前定されたる目的又は人々によつて實際に追求されてゐる所の目的に對して手段を教へることは、何等科學の任務に反することではない。吾々は因果關係を腦中に於いて轉倒して結果から出發し此れを生み出す爲めに必要な條件を問ふことが出来る。原因結果の關係と結果條件の關係、此の二者は同一の關係を異れる方面から見ただけである。因果關係を條件的關係に轉化することも出來れば、條件的關係を因果關係に轉化することも出来る。それ故に條件的關係の研究は何等經驗科學の因果的認識と抵觸するものではない。結果に人間の意志が結びつきそれが價值あるものとして追求される時は、結果は目的となる。目的とは追求される所の結果に外ならない、そうしてこれと同時に條件は目的に對する手段に轉化し規範的意義を獲得する。如何なる結果を目的として追求す可きかを決定することは科學の權限外である。何故なればそれは具體的な人間の意

志によつて決定される外仕方がないからである。然し一定の前定されたる目的又は實際に人々によつて追求されてゐる一定の目的を實現する爲めに如何なる手段が存在するかの研究は科學の範圍に於いて可能である。それは結果に對する條件の研究と同一であり、従つて因果關係の認識に歸着するからである。又同様の理由によつて、一定の手段を應用することによつて目的以外に如何なる副結果を生ずるかを確定することも勿論可能である。それ故に $\alpha$ なる目的を實現する爲めには $\beta$ なる手段が唯一の手段であるとか或は其の外に $\gamma$ 等の手段があるとか、此等の手段の應用によつて本來の目的以外に $\delta$ 等の副結果が生ずるとか、此れ等の手段の中何れが技術的に最も合理的な手段であるとか云ふことは科學の權限内に於いて教へることが出来る。然し此れ等の手段の中何れを選擇せよと命ずることは勿論不可能である。何れの手段を選擇するかは副結果に對する人々の評價、従つて人々の最後の立場によつて異なる。人々は一定の共同目的を實現する爲めの手段に就いて考究する時、如何に彼等の最後の立場の相違が採用す可き手段の選擇に影響を及ぼすものであるかをよく知ることが出来るであらう。

人々の追求す可き目的そのものを設定することは出来ないが、一定の前定されたる目的又は人々によつて實際に追求されてゐる一定の目的を實現する爲めに如何なる手段が存在するかを教へることは科學の範圍に於いて可能である。従つて科學はある人々が一定の目的を追求してゐる時、それを到達す可き何等の手段も存在しないと云ふこと、或は彼等が應用せるが如き手段ではその目的を實現することが出来ないこと云ふことを示すことによつて、苟くも彼等が技術的に合理

的に行爲せんとする限り、彼等の行爲は無意味であると云ふことを教へることは出来る。然し乍ら此の場合に於いても一般的に其の目的を追求することを或は其の手段を適用することを止めよと命ずることは出来ない。人間は必ずしも可能なことをのみ目的として追求するとは限らない。「不可能を求むる者を愛す」と云ふ立場に立つ人もあるのである。また實際に於いて可能不可能を問題外として行爲すると云ふやうなことは極めて屢々起るのである。水に溺れんとする人を見た時、冷静に可能不可能を考へ最も合理的な救助方法を行ふと云ふやうな人もあるであらうが、可能不可能に關係なく斷然水中に躍り込んで共に溺死する人もある。或はまたマックス・エーバアも云つてゐるやうに、信奉的なサンチカリストに對して彼等の行爲は社會的に「無用」である、それはプロレタリアの階級的地位を變更しないばかりか、反動的氣分の醸成によつて却つてそれを悪化すると説いた所で彼は其の行爲を改めないであらう。Verantwortungsetzlikに對して Gesinnungsetzlikとも稱す可きものがある。自己の行爲の結果に對して責任を持つ人もあれば、それと逆で Der Christ tut recht und stellt den Erfolg Gott anheim と云ふ様な立場に立つ人もあるのである。或は同一人でも場合によつて二つの中何れの立場を採るかが變るであらう。此の中の何れの立場を採れど科學の名に於いて命令することは不可能である。<sup>17)</sup>私は此の點に於いて一八五〇年に戦術上の差から Kommunistenbund の中央委員會が分裂した時、マルクスが反對派たる少數派に加へた非難——

An die Stelle der kritischen Anschauung setzt die Minorität eine dogmatische, an die Stelle

17) Max Weber, Politik als Beruf. S. 57 ff.  
Max Weber, Wissenschaftslehre. S. 475 ff.

der materialistischen eine idealistische. Statt der wirklichen Verhältnisse wird ihr der blosse Wille zum Triebrad der Revolution. Während wir den Arbeitern sagen: Ihr habt 15, 20, 30 Jahre Bürgerkriege und Völkerkämpfe durchzumachen, nicht die Verhältnisse zu ändern, sondern um Euch selbst zu ändern und zur politischen Herrschaft zu befähigen, sagt Ihr im Gegenteil: Wir müssen gleich zur Herrschaft kommen oder wir können uns schlafen legen.<sup>18)</sup>

に對して

Ich habe die hier angefochtene Ansicht ausgesprochen, weil ich überhaupt in dieser Sache enthusiastisch bin. Es handelt sich darum, ob wir im Anfange selbst köpfen oder geköpft werden.と答へたシャツバアの言葉を想起せざるを得ない。吾々は科學の名に於いて斯様な全く異つた二つの立場を如何にして調訂することが可能であらう、それは全く不可能である。

同じ様な理由で、嘗て經濟學に於いて盛に論議された所の自由貿易か保護貿易かと云ふが如き問題も、經濟學の名に於いて之れを決定することは不可能である。古典學派の自由貿易主義に對して其の歴史的相對性、即ち歴史的事情の如何によつて例へば商工業の振興と云ふが如き同一の目的——尤も商工業と云つても色々な種類がありそれ等は利害相反するが如き状態にあるであらうから一概には云へないが、此處では其れ等の問題は度外視して置く。——を追求する場合に於いても、其れに對して技術的に適當な政策は異つて來る、十九世紀の英國の如き世界市場に覇權を握つてゐた國に於いては自由貿易は最適の政策であつたであらうが、自由貿易政策が如何なる

18) Marx, Enthüllungen über den Kommunistenprozess in Köln. Berlin 1914. S. 52

國に於いても如何なる時代に於いても絶対に最適な政策であるとは云へない、と云ふことを示したのは歴史派の功績である。然しよく考へる時は、自由貿易が保護貿易かと云ふが如き問題は經濟學に於いて解決出来ない問題であることを知る。勿論一定の状態の下に於いて、自由貿易を採用することによつて如何なる結果が生ずるか、例へば商業及び工業の振興を來すが農業を衰微せしめるとか、或は一定の目的例へば商業の振興を實現するのに自由貿易が技術的に最適な手段である、と云ふ様なことを教へるのは經濟學の範圍内に於いて可能である。然しそれは何れの貿易政策を採れど命することは出来ぬ。商工業により多くの關心を持つか農業により多くの關心を持つかによつて人々の政策的態度は自づから異つて來る。如何なる權利によつて經濟學は此れ等の政策的態度の中の一つに身方することが出来るか。政策上の問題は實際の政策上の闘争によつて解決するより外仕方がない。

マルクスがリカアトの *wissenschaftliche Unbefangtheit* の例として擧げてゐる所の言葉<sup>19)</sup>「若干の資本が失はれるであらうことは否定出来ない、然し資本の所有又は保存は目的であるか手段であるか。疑も無く手段である。吾々の欲する所のものは貨物の豊富である、だから若しも、吾々の資本の一部を犠牲にすることによつて、吾々は吾々の享樂及び幸福に役立つ所の諸客體の年々の生産額を増加することが出来る」と云ふことが證明され得るならば、吾々は吾々の資本の一部を失ふとも不平を云ふ可きでないと思ふ<sup>20)</sup>」とか或はまた「二〇、〇〇〇磅の資本を有し、其の利潤の年額二、〇〇〇磅なる人にとつては、何れの場合に於いても其の利潤が二、〇〇〇磅以下

19) Marx, Theorien über den Mehrwert II. Bd. I. S. 311.

20) Ricardo's Economic Essays. Ed. by Gonner, pp. 293-4.

に減少しない限り、彼の資本が百人を雇傭しやうと千人を雇傭しやうと、或は生産せられた貨物が一〇、〇〇〇磅に賣れやうと二〇、〇〇〇磅に賣れやうと、全く無關係な事柄であらう。國民の眞の利害もこれと同様ではないか。其の純粹の實際所得、即ち其の地代及び利潤が同一である限り、其の國民が住民一千萬人から成らうと一千五百萬人から成らうと何等重要なことではない』と云ふが如きリカアドの言葉も、少く共彼が階級的利害に囚はれなかつたと云ふ限りに於いての wissenschaftliche Unbefangenheit の一つの證據にはなるかも知れないが、それが科學的に基礎づけることの出来ない所の政策的の——而かも甚だ首尾一貫せる生産政策的の——立言であると云ふことは否定出来ない。

吾々は、科學の名に於いて、一定の實踐的立場を生産することも出来ないし又種々の相争つて居る所の實踐的立場の間の調訂者となることも出来ない。マックス・エーバーが比喩的な表現を使用して云つてゐる様に世界の種々なる神々が相互に争つてゐる。世界の種々なる Wertordnung は相互に和解し難い闘争に入り込んでゐる。『希臘人が嘗ては Aphrodite に、後中には Apollon に、また特に各人が彼の都市の神々に、犠牲を捧げたのと同じやうな状態で今日も尙あるのである。』唯、それが神話的な形態に於いて現はれてゐないだけである。『最後の立場の如何に應じて個々の人々にとつて或るものは悪魔となり他のものは神となる、各人は何が彼にとり神であり何が悪魔であるかを自から決定しなければならぬ。そうして人生の總べての Ordnungen を通じ斯くの如くである。』<sup>22)</sup>私に科學が——それ自身此岸に於ける人間の産物の一つに過ぎない所の科學

21) Ricardo, Principles. Gouner's ed. p. 336

22) Max Weber, Wissenschaftslehre. S. 546

が——如何にして全人生に對して命令規範を與へ得るかを理解することが出来ない。

若しも科學としての經濟政策が、實踐的規範としての經濟政策を生産することを任務とせんとするならば、私は斯様な意味に於ける經濟政策の科學性を否定しなければならぬ。然し既に述べた様に一つの前定されたる目的に對する手段の研究は科學の範圍に於いて可能である。それ故に、生命の延長健康の増進と云ふことを一つの前定されたる目的とし、其の目的實現の爲めの手段を研究することによつて一つの *Kunstlehre* としての臨床醫學が成立してゐると同様に、一つの前定されたる目的に對して手段を研究することによつて一つの *Kunstlehre* としての經濟政策の成立は可能である。然し此の場合に注意しなければならないことは、第一には其の前定されたる目的が内容的に明確なる目的でなければならぬと云ふことである。例へばよく知られてゐるやうに經濟學は『國富』増進の爲めの一つの技術論として發展した。然し乍ら此の場合に於ける『國富』なる語が明確な概念内容を持つてゐたと信するならば、勿論それは素朴な *Wortglaubigkeit* である。人々は其の政策的立場に應じて彼等にとつて望ましい所のものを『國富』なる言葉の中に移入することが出来る。經濟學者によつて『國富』なる言葉に盛られた内容が異なる計りでなく、同一の經濟學者に於いてさへ時によつて異つてゐる。斯様な状態では『國富』増進の爲めの手段に關する議論は結局水掛論になつて仕舞ふ。第二に注意しなければならないことは、前定されたる目的は何處までも前定されたる目的であつて、これを追求す可き理想として人々に強制するのは科學の權限外であると云ふことである。例へば臨床醫學に於いては、前に述べた様に、生命の延長健

康の増進と云ふことを目的として前定するが、それは單に前定された目的であつて、これを追求す可き目的として人々に強制しはしない。それ故に臨床醫學そのものは、自殺死刑戦争等を非難しないし又非難する権利も持たないのである。技術論としての經濟政策に於いて目的を前定する場合に於いてもそれと同様でなければならぬ。何故なれば一定の目的を他人に對して強制するのは具體的な人間の意志であつて科學の權限外であるからである。

或はまた次の如く云ふ者があるかも知れない、即ち一定の社會に於いては多數の人々が習慣的に共通的に目的としてゐる所のものがある。經濟學は斯様な事實に立脚して規範を與へることが出来る、と。然し多數の人々が一定のものを共通的に目的としてゐると云ふ單なる事實の確定からして如何にしてそれを目的とす可きであるかと云ふ結論を論理的に導き出すことが出来るか。それは到底不可能である。多數の人々が天が動き地が固定して居ると考へてゐると云ふ單なる事實の確定からして、其の考への眞であると云ふ結論が導き出されないのと同様である。

或はまた次の様に云ふ者があるかも知れない、吾々が客觀的に妥當なものとして追求す可き理想がある。一般的幸福又は一般的利益がこれである。經濟學は一般的幸福又は一般的利益を目標として何等階級的利益に囚はれることなく客觀的の規範を與へることが出来る、と。然し一般的幸福だとか一般的利益だとか云ふが如き理想を如何にして科學は内容的に決定することが出来るであらうか、形式的には決定出来るかも知れないが内容的に決定することは不可能であらう。人々の立場によつて色々な内容をそれ等に持たしめることが出来る。正にその内容の異つてゐる點

にこそ政策上の鬭争の意味がある。具體的な場合に何が一般的幸福又は一般的利益に役立ち何が役立たないかと云ふが如きことを論理的客觀的に證明することは不可能である。それ故に「其れ（企業者所得）の中には常に絶對的に必要な……給付に對する報酬と見なければならぬ所の要素、即ち生産力の組織に對する報酬が含まれてゐる……場所的分量的に動搖し變化する需要に對する調達は、一つの獨立の給付である……それは常に特別の報酬を要求するであらう。同様に新しい生産機會……の發見も特別の報酬を受ける權利がある。……斯様な一般的利益になる生産的營利的活動に刺戟を與へる所の此の所得の存続は望ましく又正當である」と云ふが如き叙述に對しては抗議する人が大分あるであらうと思ふ。

科學が直接に何等の規範又は命令を與へるものでないと云ふことは一部の人々には甚だしく科學の權威を失墜されたやうに感ぜられるかも知れない。然し科學は科學者の自尊心を満足せしめる爲めにのみ存在するのではないから仕方がない。尙科學が何等の規範をも與へ得ないならば、科學は無味乾燥になつて仕舞ふと云つて非難する人があるかも知れないけれども、科學者にとつては無味乾燥でないことよりも眞理の方が大切なことから之れ亦致し方ないことである。科學は友愛的互助と熱情的鬭争との人生を超越した高所に位し之れに客觀的な規範又は命令を與へ得る程萬能ではない。科學は此岸に於ける人生の産物の一つに過ぎない。吾々は科學の名に於いて爲し能ふ限界を明確に意識してゐることが必要である。科學的研究者たる限りに於いては、吾々は「論理の牢獄」を脱することは出来ない。此の點に於いては科學から其の權限外に屬する所のもの

23) Philippovich, Grundriss der Politischen Oekonomie, I. Bd. 18. Aufl. S.

を求めるよりも寧ろ「科學は吾々にとつて唯一の最も重要な問題、吾等何を爲す可きか、吾等如何に生く可きかと云ふことに對して何等の解答を與へないが故に、無意味である。」と云ふトルストイの立場の方が遙かに徹底してゐる。

尙科學それ自身が目的を設定し規範を與へることが出来ないこと云ふことは、人々の意志的行爲、目的的行爲を其の研究客體となし得ないと云ふことではない。人間は人形ではない。彼の行爲は受動的な運動ではなく能動的な活動である。其の——恰もそれが一個の特種な人格であるかのやうに——目的を完成する爲めに人間を手段として使用するのは「歴史」ではない、歴史は彼の目的を追求する所の人間の活動に外ならない。<sup>24)</sup>勿論人間の行爲の意志的要素を度外視し、それを外界からの刺戟に基く筋肉の運動として觀察することが出来ない譯ではない。然し斯様な見方は自然科学的の見方であつて、人間の行爲を眞活動として觀察する所の社會科學の見方ではない。社會科學は人間の行爲を眞活動として觀察すると云つても、社會を統一的な意志によつて支配せられる Zweckgehalte として見ると云ふのではない。例へば、今日の所謂自由競争制度の下に於いては、少く共經濟生活に關する限りに於いては、社會は無數の經濟單位に分裂し、個別經濟と同じやうな統一的な一つの經濟單位としての國民經濟なるものが存在する譯ではない。所謂國民經濟なるものはリーフマンやワイヤマンなども指摘してゐる様に一定の政治的地理的領域内に於いて相互に交換關係に入り込んでゐる所の無數の個別經濟の總稱に過ぎない。それ故に「國民經濟の本質は社會的倫理的原則に於いて基礎づけられてゐる」「國民經濟は統一的な倫理的

な Zweckgebilde である、……個人は「經濟人」としても大なる社會的目的的有機體の分肢、擔ひ手に過ぎない。後者の目的は前者の目的から生ずるが、個人の目的はまた社會經濟的目的機能から其の特殊の内容を獲得する』と云ふ位所謂國民經濟なるもの、特徴に就いての大なる誤解はないであらう。然し、社會をそれ自身の目的を持つた統一的な構成體と見ることが出来ないからと云つて、直ちに人間を空間に於いて反射運動をしてゐる生命のない操り人形と同様に見なければならぬと云ふ反對の結論は出て來ない。Lebensnot を克服せんとする意志、營利への意志、此れ等を度外視して何うして今日の經濟現象を説明することが出來やう。近頃社會科學方法論に於いて自然現象は *Describein* することは出來るが *Verstehen* することは出來ない。之に反し行爲の世界には意味があり、これを了解することが出來ると云ふ様なことが、盛に云はれてゐるのも、人間は意志的行爲者即ち眞の意味に於ける活動者であるからである。社會科學、従つてまた經濟學は、斯様な人間の活動、實踐を其の主要材料とするが、然しその故に社會科學其のもの迄意志化して規範を與え得る、と考へるならばそれは勿論誤りである。理論的思惟と實踐的意欲とは同一ではない。實踐に就いての學とその認識材料たる實踐とは異なる。それは天文學それ自身が宇宙でないのと同様である。

最後に尙、一つの起り得可き非難に就いて答へて置き度い。

私は先きに學問的研究者たる者は、苟も彼が其の資格に於いてある限りは、學問を實踐的要求に適應せしめてはならない、と云ふことを述べた。之に對して次のやうに非難する者があるかも

知れない。——學問を實踐的要求に適應せしめてはならないと云ふことも一つの命令又は規範ではないか。若し科學が命令又は規範を與へることが不可能であると云ふならば、學問的研究者は實踐的要求に學問を適應せしめてはならない、と云ふことも亦何等學的根據を以つて主張することが出来ない筈であり、それは單なる主觀的な說法ではないか、と。

然し斯様な非難の當らないことは一寸考へれば直ぐ分る。私が、科學は命令又は規範を與へることは出来ない、と云つた場合の命令又は規範は無條件的の命令又は規範である。學問的研究者は、彼が苟も學問的研究者たる限りに於いては、學問を實踐的要求に適應せしめてはならないと云ふことは、『汝は學問的研究に従事せよ』と云ふ無條件的規範と同一でない。學問の價値を認め其の研究に従事するか、或はトルストイの様に學問を輕蔑するかは、學問それ自身の立場から見れば、個人の意志に任して置くより外仕方がない。吾々は學問の名に於いて、汝は宗教界に入れば、汝は藝術に精進せよと命令することが出来ないと同様に、汝は學問的研究に従事せよと命令することも出来ない、然し苟も學問的研究者たる者は學問の價値を認める人でなければならぬ。學問の價値を認めない學者、學問を欲しない學者なるものは、動く所の動かざるもの、四角の圓と云ふと同じく *Unbegreiflich* である。それ故に、學問的研究者は、苟も彼がその資格に於いてある限りは、實踐的要求にそれを適應せしめてはならない、と云ふことは、學問の價値を認め、學問的研究に従事せんと欲する限り、人は實踐的要求にそれを適應せしめてはならないと云ふだけのことであつて、斯様な假定的な又は條件的な規範ならば單に經驗科學のみではない數學論理

學の如き學問もこれを與へることが出来る。經驗科學がこれを與へ得ることは先きに結果條件の研究が因果の研究と背馳するものでないと云ふことに就いて述べたところによつて明かであるが、例へば數學に於いても  $(a+b)(a-b) = a^2 - b^2$  なる方程式から二つの數の和及び差の積を決定せんと欲するならば、其れ等の二乗の差を作れと云ふ規範的命題を引き出すことは少く共數學の概念を極めて狭く決定しない限り、其の範圍を越えるものでないであらう。然し嘗つて——そして屢々今日も尙——經濟學の名に於いて與へられた所の規範は斯様な假定的條件的な規範ではなかつたのである。「汝若し國富を増進せんと欲せば自由貿易を採用す可し、然らざれば致し方なし」と云つたやうな種類のものではなかつたのである。そうしてまた實際に吾々が實踐人として各々の理想に従つて一定の政策を主張する時、吾々は常に他人に之れを強制しなければ止まぬものであつて、斯様な假定的條件的な規範に満足して居れないことは當然である。

(附記) 前號 四〇一頁五行目 内容的標準は内在的標準の誤

四一〇頁十四行目「それは彼が如何に……」は『』をとる。